追憶馬淵 ▸

學生與親屬眼中的馬淵東一

学生・親戚から見た馬淵東一

학생과 친척의 눈에 비친 마부찌도이치

Mabuchi Toichi in the Eyes of his Students and Relatives

文｜山西弘朗（政治大學民族學系碩士生）
圖｜編輯部

2009年8月26－27日，國立政治大學原住民研究中心於國立台灣史前文化博館主辦了第二屆「台日原住民族研究論壇」。此次論壇主要是為了迎接即將到來的馬淵東一百年冥誕，故以「馬淵東一的學問與台灣原住民族研究」為題，進行了三場演講以及五個場別14篇的研究發表，其中並包含四位日本學者的發表。希望透過馬淵東一的相關研究，連接日治時期與現今學者進行的原住民族研究，深化台灣原住民族研究的基礎。

馬淵東一對研究的熱誠與嚴謹，令學生們印象深刻。
馬淵東一の研究に対する熱意と厳密さは学生たちにとって印象深いものであった。（圖片提供：馬渕悟）

在所有的發

2009年8月26・27日の二日間、国立政治大学原住民族研究センター主催の第二回「日台原住民族研究フォーラム」が、国立台湾史前文化博物館を会場に開催された。今回のフォーラムでは今年生誕百年を迎える馬淵東一の学問と台湾原住民族研究をテーマに、3つの講演、5つのセッションで14の研究発表が行われ、其の内、日本からの発表者4名が含まれている。馬淵東一の研究を通して、日本統治時代と現在の学者の研究とを結びつけ、台湾原住民族研究の基礎を深めることができた。

5つのセッションと3つのテーマ講演を終え、このフォーラムを締めくくるように第6セッションとしてテーマ座談「追憶馬淵東一先生」が中央研究院民族学研究所の黄智慧を座長に行われ、生前の馬淵東一を知る元学生や親族にそれぞれの馬淵東一との出会い、そしてその人となりや記憶に残っているエピソードなどを語ってもらった。

政大原住民族研究中心

「追憶馬淵」主題座談，由黃智慧老師（中）擔任主持人。
テーマ座談「追憶—馬淵東一先生」の座長は黄智慧先生。
（圖片提供：編輯部）

表和演講結束之後，還有一場以「追憶馬淵東一老師」為題的座談會，這場替此次論壇畫下完美句點的座談會主持人是中央研究院民族學研究所的黃智慧老師。座談會中，由馬淵東一老師生前的學生和親友們分別追憶他們與馬淵老師的點點滴滴。

學生眼中的馬淵東一

植松明石 日本民俗學研究所所長．前跡見女子學園教授

我第一次見到馬淵東一是在戰後，馬淵任教於東京都立大學時。因為我家就在當時的東京都立大學附近，所以就近去當旁聽生。馬淵老師在研究方法上給我許多指導，其中也讓我開始對南方的調查感到有興趣。

其後雖然也因此投身於沖繩島嶼的民俗調查，不過因為沖繩的島嶼眾多，與馬淵老師在調查地區相遇的機會可說是微乎其微。在1965年，荷蘭學者C. Ouwehand和馬淵老師一同到石垣島做調查，正巧當時我也在石垣島，才有機會與馬淵老師住在同一間民宿並一起參與民俗學的調查，那段時光讓人覺得非常愉快。

学者としての馬淵東一にまつわる事ども

植松明石 日本民俗学研究所所長・元跡見女子学園教授

馬淵東一との出会いは、戦後馬淵が東京都立大学で教鞭を取られることになり、私の家が大学のすぐ近くにあった関係で聴講生として講義を受けに行った時であった。馬淵先生から特に研究方法について多くの指導を受ける中で南方の調査に興味を持つようになった。

その後、沖縄の島々の民俗学調査に身を投じることになったのですが、沖縄には多くの島があるため調査地で馬淵先生にお会いすることはほとんどなかった。1965年石垣島に偶々オランダの人類学者コルネリウス・アウエハント（C. Ouwehand）と馬淵が調査に訪れた際、私も石垣島に滞在していたため、同じ宿に泊まって一緒に民俗学調査をする機会に恵まれ、とても楽しい一時を過ごすことができた。

このフォーラムで馬淵先生は愛煙家で酒豪でもあったと耳にしましたが、私と一緒のときは、一度もお酒を飲んでいる姿を見ること

政大原住民族研究中心

植松明石於掃墓時留影。 （圖片提供：編輯部）
お墓参りでの植松明石先生。

齋藤ミチ子教授。 （圖片提供：編輯部）
齋藤ミチ子教授

這次論壇我聽聞馬淵老師不但是個老煙槍而且還是酒國英豪，但當時我與老師在一起的時候，老師滴酒未沾，因此聽到老師很會喝酒讓我感到驚訝不已。

齋藤ミチ子 前國學院大學助教授

我第一次與馬淵東一相遇，是在東京都立大學旁聽馬淵老師的課時。雖然馬淵老師很嚴格，但有時亦能窺見老師不一樣的一面。

例如有一次，我受老師之託組織一個全由女性組成的女性祭祀研究會，我負責幫老師準備研究會所需的資料。研究會中，馬淵老師給予這些很細心且熱切地想學習的女性們非常多且溫和的鼓勵。參加這個研究會的某位家庭主婦的發表受到馬淵老師的稱讚之後，從此打開了她的研究之門，甚至最後成為學者在大學任教。

馬淵老師晚年病魔纏身，我們請問老師是否暫停研究會，老師卻仍拖著病身請師母陪著他繼續出席研究會，師母說：「因為我先生覺得這個研究會讓人覺得非常愉快。」

はなく、酒豪であったと聞いて、驚いている。

斎藤ミチ子 元國学院大学助教授

私が馬淵東一と初めてお会いしたのは、東京都立大学で馬淵先生の講義を聴講することになった時である。馬淵先生は強面であるが、時々それとは異なった一面を垣間見せることがあった。

ある時、私は馬淵先生から頼まれて女性ばかりの女性祭祀の研究会をマネージメントをすることになり、研究会に使用する資料の準備などで馬淵先生のお手伝いをさせていただいた。その研究会において馬淵先生は、繊細でひたむきに何かを学ぼうとする女性に非常にやさしく励まされた。その研究会に参加していたある主婦は研究会での発表を馬淵先生に褒められて、研究に目覚め、大学で教鞭を取るようになった。

馬淵先生は最晩年になって病に冒され、研究会をお休みにしましょうかと尋ねても、体を引きずりながら奥様に付き添われ研究会に

政大原住民族研究中心

我看到這樣的景象，讓我深切地領會到，原來偉大的學者馬淵東一的背後，有一位偉大的妻子支持著，他才能專心致力於研究和教學。

另外，馬淵老師在瀨川清子小姐近乎死亡的狀態住院時，還要我用某個理論向瀨川小姐說明他對onari神信仰有不同的看法，這讓我深刻地感覺到馬淵老師對研究的執著，驚訝的同時，也不禁覺得這就是馬淵老師。

小川正恭 武藏大學教授

眾所周知馬淵老師是個老煙槍，我這有一些相關的小故事。話說有一天，老師在自家的院子裡玩弄花草時，用手指殺死了一隻蟲，他笑著跟我說，因為我的手指上有很多尼古丁，小蟲馬上就會死掉。

我是在大學三年級的時候第一次修馬淵老師的課，老師上課的方式是把他當時想寫的論文或者相關資料帶來，對我們講述關於那篇論文的東西。至今仍令我印象深刻的是，老師上課快要遲到時，他會一次跨上兩個階梯，然後滿身大汗氣喘吁吁地進教室。

小川正恭教授。 （圖片提供：編輯部）

小川正恭教授。

お越しになり、奥様は「夫はこの研究会をとても楽しみにしているから」とおっしゃられた。私はこの姿を見て、偉大な学者・馬淵東一はそれを支える偉大な奥様がいらしゃったからこそ研究や教育に専念することが出来たのだと痛感した。

また瀬川清子さんが瀕死の状態で入院していた時でさえ、オナリ神について彼女の考えを異にする馬淵先生は、私に彼女にこの理論を使って説明してあげてくださいとおっしゃった。私は馬淵先生の研究に対する執拗さをつくづく感じ、呆れた反面、先生らしいとも思った。

小川正恭 武蔵大学教授

馬淵先生は愛煙家であったことは多くの人の知るところだが、それに関するエピソードがある。ある時、先生は自宅の庭で趣味の花いじりをしながら、虫を指で殺しており、私に自分の指にはニコチンがたくさん付いているから虫もすぐに死ぬんだよと笑いながらおっしゃった。

私は大学三年生の時、初めて馬淵先生の講義を履修した。先生の講義スタイルは、先生がその時に書こうとしている論文やそのための資料を持参し、それについて話すというものだった。また講義をよく遅刻そうになりながら、階段を二段飛びで汗をかきながら息を切らして教室へ入ってくる姿が今でも鮮明に記憶に残っている。

馬淵先生はとても駄洒落が好きでパターンが決まっているものもあったが、いつも話の中に一つか二つは必ず駄洒落を入れてお話しされ、サービス精神旺盛でした。また学生が

政大原住民族研究中心

馬淵老師非常喜歡講雙關語，而且有一定的形式，他總是在話中夾雜著一兩句雙關語，敬業精神非常強烈。另外，學生若是有問題去請教老師，老師一定傾囊相授。

親戚眼中的馬淵東一

等松春夫　防衛大學校教授

我的外祖父和馬淵東一是堂兄弟，當時他們同時都在台灣，因此他與我的外祖父母非常親近。

1970年代後半至80年代正值我高中時期，當時每次只要我到外祖父母家玩，就常常可以看到東一叔公一大早來，用茶杯以喝茶般的速度喝酒，和外祖父母就這麼一直聊到夜晚，而且最令我驚訝的是他竟然可以面不改色。還有，他可以對不同的人聊各種不同的話題，當時我只是個小孩，根本不可能知道身為學者的馬淵東一，我只覺得東一叔公這個人真是個敬業精神旺盛而且話題豐富多樣的人。

我的印象中，東一叔公很認真地跟我說過，戰爭中他在各地進行調查時，總會纏著一條紅色腰布（褲襠布），那是因為萬一被美軍

掃墓時，等松春夫代表家屬致詞。　（圖片提供：編輯部）
お墓参りで等松春夫先生が親族を代表して挨拶。

等松春夫（右）與叔公馬淵東一（中）、母親馬渕史子（左）合影。　（圖片提供：等松春夫）
等松春夫先生（右）、先生が「おじさん」と呼んでいた馬淵東一先生（真中）と母親の馬渕史子さん

馬淵先生に教えを請えば、いくらでもおしげなくご指導して下さった。

親族としての馬淵東一にまつわる事ども

等松春夫　防衛大学校教授

母方の祖父が馬淵東一といとこであり、共に同じ時期台湾に滞在していたこともあり、馬淵東一と祖父母と深い親交があった。

1970年代後半から80年代にかけて中学高校生だった私が祖父母の家に遊びに行くと、よく東一おじさんが朝から来ていて、夜までずっと祖父母と話しながら、お酒を湯呑でお茶を飲むような速度で飲んでいた。しかも顔色をまったく変えることもなく、私はとても驚いた。そして話す相手に応じて話す話題はいろいろで、学者としての馬淵東一を知る由もなかった私は、東一おじさんはサービス精神旺盛で、話題が豊富な人だと子供ながらに思っていた。

印象に残っているのは東一おじさんが私に、戦争中、各地に調査へ行っていた時、万が一アメリカに攻撃されて船が沈没してもサメなどが寄ってこないように、いつも赤褌をしていたと

政大原住民族研究中心

馬淵家的家族合照。
馬淵家家族の集合写真。
（圖片提供：等松春夫）

攻擊而沉船，紅色可以避免讓鯊魚等靠近。

此外，東一叔公生前就常提到，要在他的墓上刻上「馬耳東風」四個字，大家都以為他在開玩笑而不予理會，沒想到他真的實現了，實際上看到這四個字總會讓人感到非常愉快。

此座談會所獲

在這次的座談會中，學生們和親友們分別追憶了馬淵東一的點滴。從學生的眼中我們看到了身為教育家的馬淵，馬淵在教育方面的貢獻從他學生們活躍於學術界的情形便可略知一二。另外，雖然親友眼中的馬淵東一是個不可思議的怪人，但或許馬淵本人對週遭人的反應樂在其中，甚至還觀察著人們的反應也說不定呢！◆

真面目な顔で話していたことだ。

また生前、東一おじさんはお墓に「馬耳東風」と付けるとよく話しており、みんな冗談だと思っていたのだが、実現したようで、実際にそれを見られるのをとても楽しみにしている。

この座談を通して

この座談では、元学生と親族に馬淵東一にまつわるいろいろな思い出を語っていただいたが、元学生から教育者としての馬淵について語られた。馬淵の教育者としての偉大さは彼の学生達のその後の活躍を見れば、自ずと納得できる。また親族の中でも馬淵東一はちょっと不思議な変わり者であったが、本人は周りの人の反応を楽しんで、観察していたのかもしれない。◆

政大原住民族研究中心